

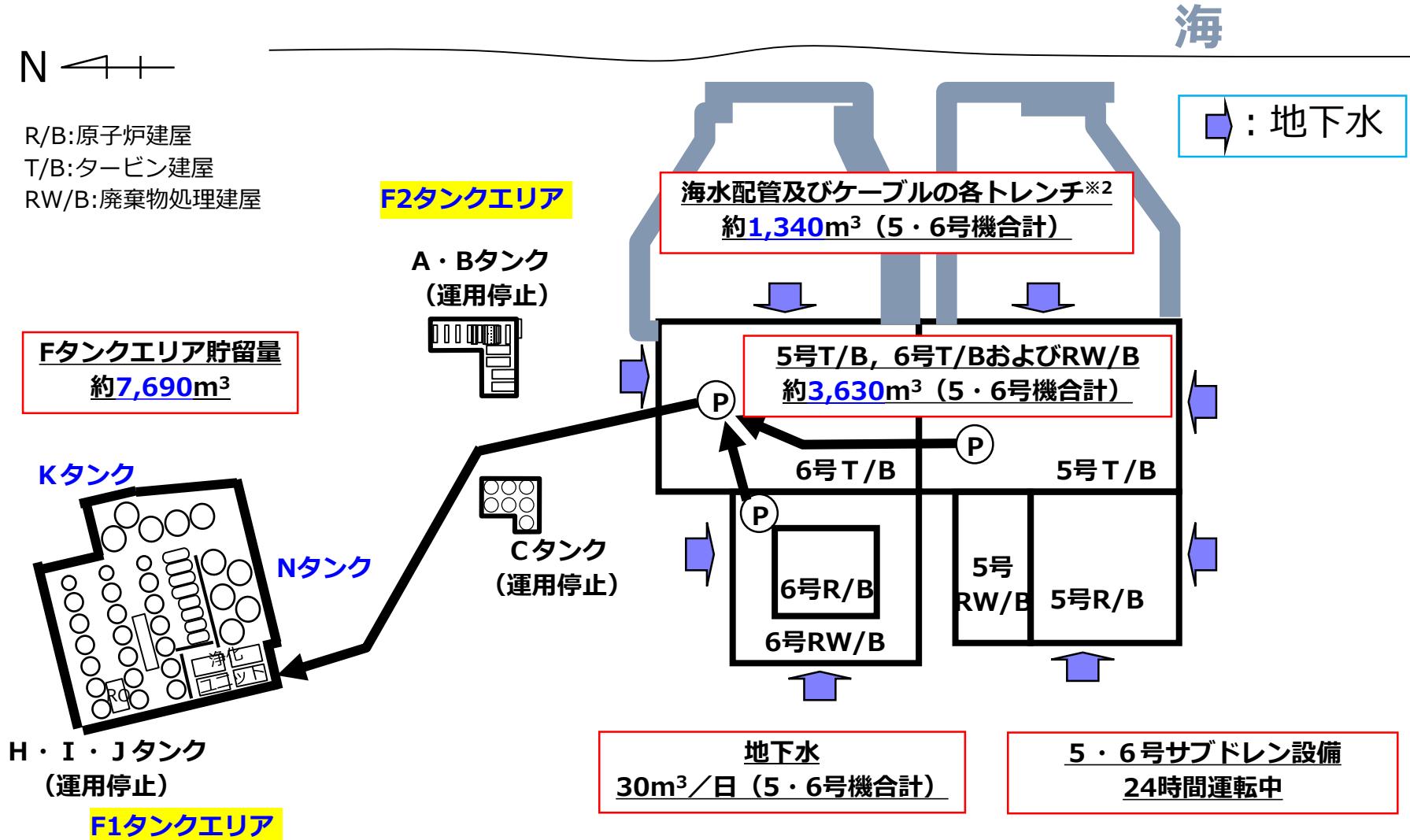
福島第一原子力発電所5・6号機の現状について (5・6号機低レベル滞留水他の状況)

2025年12月25日

東京電力ホールディングス株式会社

- 5・6号機の現状について

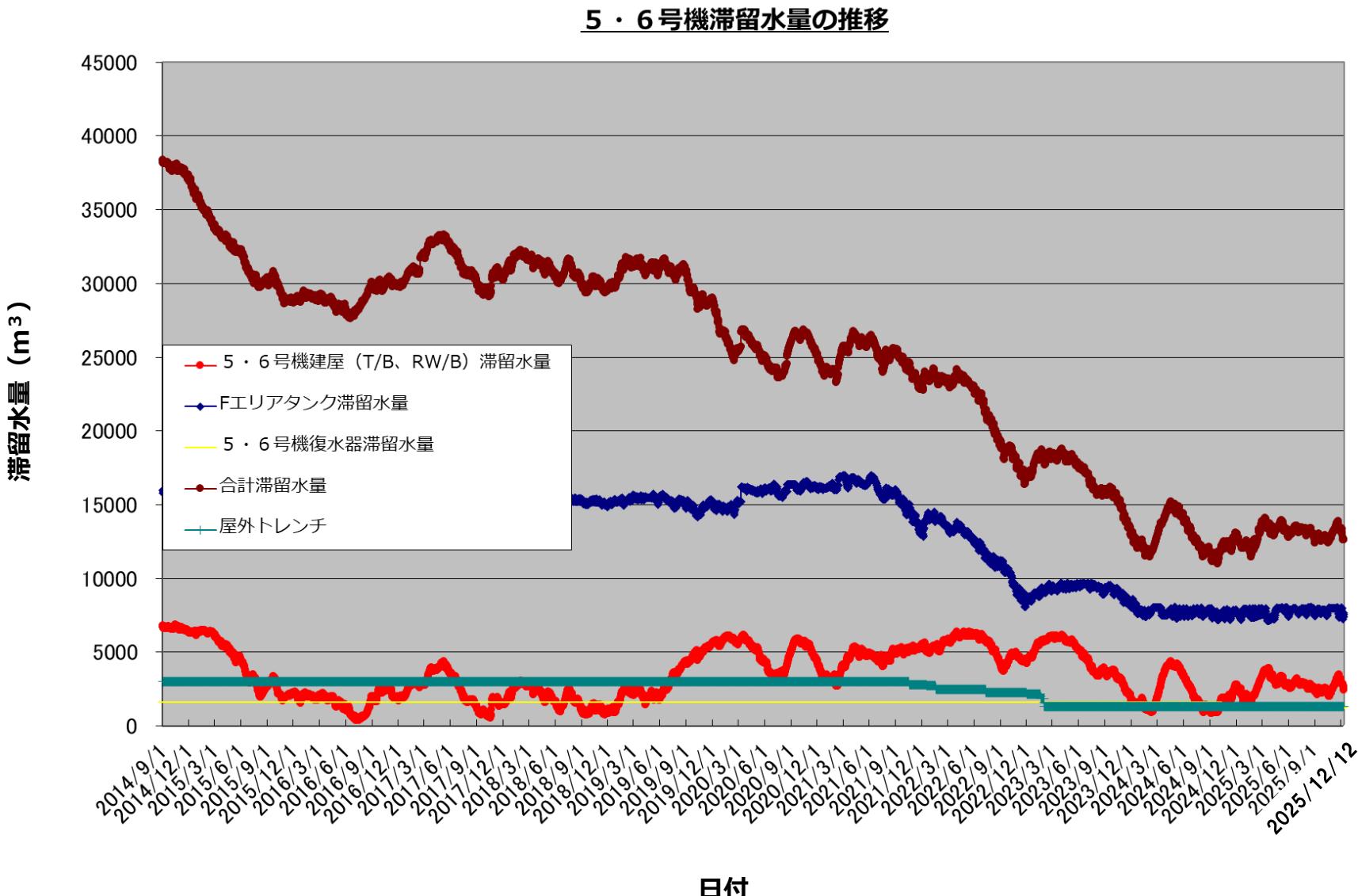
- 低レベル滞留水処理の進捗状況
- 屋外トレンチ等の低レベル滞留水処理の進捗状況
- 運用停止タンクの解体見通し
- サプレッショングール水サージタンク周辺土壤改良工事について
- 6号機使用済燃料取り出し後の運用見直し

5・6号機 低レベル滞留水量の合計約12,660m³ (2025.12.12現在)

※1：5・6号機滞留水は、1～4号機滞留水と比べ放射能濃度が十分低いため、区別する目的で「低レベル滞留水」と記載する。

※2：1Fトレーンチ溜まり水一覧表とは別管理の値である。

- 2014年9月から2025年12月までの5・6号機 低レベル滞留水量の推移は以下のとおり



- 5・6号機サブドレン設備は2022年3月28日より運用（移送）を開始し、現在は24時間運転中※1



■ 配管布設ルート（約1,900m）

■ 中継タンク設置済（2基）

■ 運転中のサブドレンピット・ポンプ(5箇所)

■ 停止中のサブドレンピット・ポンプ(8箇所)
No.75,80,84,89,90,92
(ポンプ点検2025年12月1日～12月19日)

※1：汲み上げ量の監視を行なながら、サブドレンピット・ポンプの運転計画を立てている。

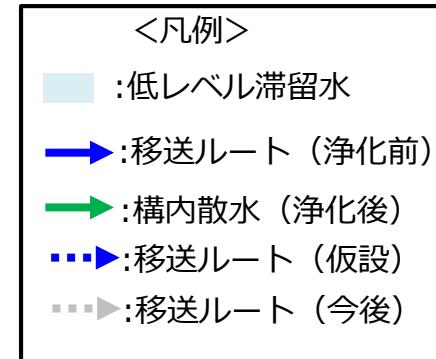
※2：渴水期により水位低下が見受けられ運転停止中。水位が回復次第、運転を再開予定である。

※3：地震によりピットの傾きがあり運用停止中。連結しているNo.89ピットより地下水の汲み上げをおこなっているため運用上の影響は無い。

- 5・6号機の現状について

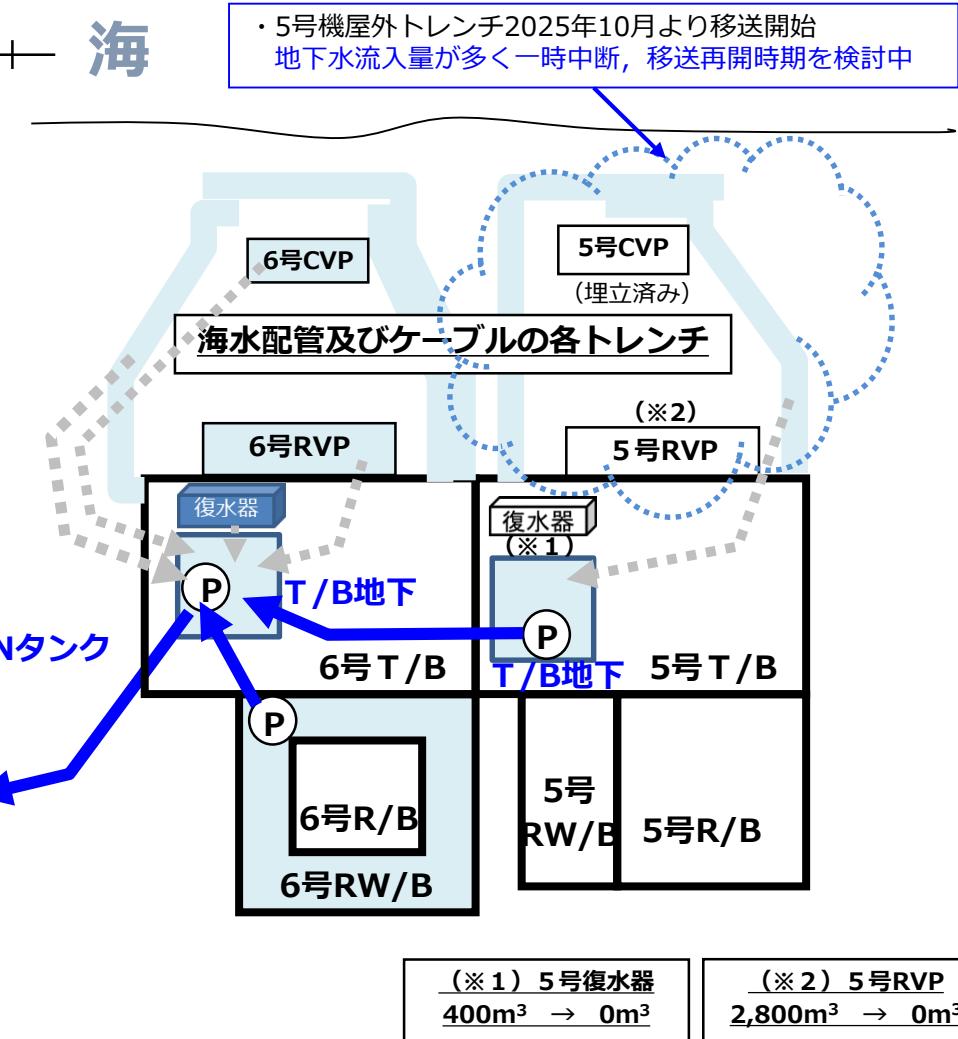
- 低レベル滞留水処理の進捗状況
- 屋外トレンチ等の低レベル滞留水処理の進捗状況
- 運用停止タンクの解体見通し
- サプレッショングール水サージタンク周辺土壤改良工事について
- 6号機使用済燃料取り出し後の運用見直し

- ✓ 5・6号機建屋の低レベル滞留水は、6号機T/Bを経由し、F1タンクエリアへ移送。その後、浄化ユニットで処理を行った後、散水基準を満たしていることを確認し、構内散水を実施している。
- ✓ 5・6号機各建屋の滞留水低減対策に併せて、**建屋周辺トレーンチ等の低レベル滞留水の処理**を行うもの。



N ← + 海

・5号機屋外トレーンチ2025年10月より移送開始
地下水流入量が多く一時中断、移送再開時期を検討中



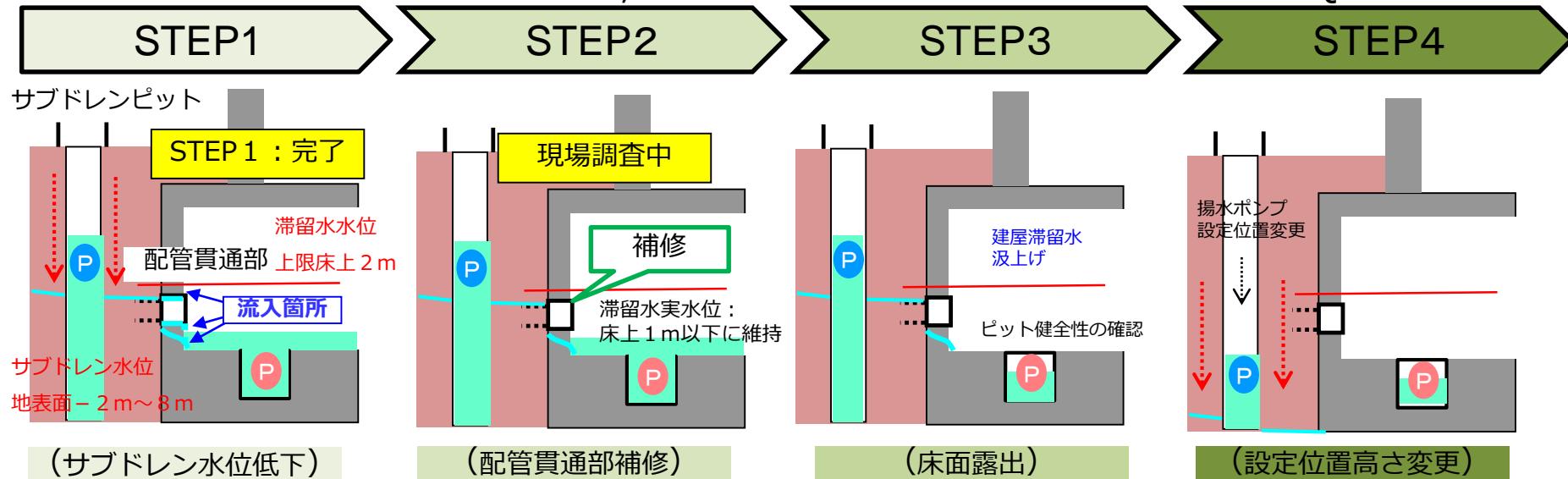
※：5・6号機滞留水は、1-4号機滞留水と比べ放射能濃度が十分低いため、区別する目的で「低レベル滞留水」と記載する。

【参考】5・6号機各建屋の滞留水低減対策

更新

7

- 5・6号機建屋への地下水流入量を低下させるため、下記の対策を進めていく。
 - サブドレン運用見直しについては、設備改造の物品納期に併せて2026年度4Qとする。



＜凡例＞ P サブドレン揚水ポンプ P 滞留水移送ポンプ ■ 地面・土中 ■ 各建屋壁面・構築物

- 5・6号機の現状について

- 低レベル滞留水処理の進捗状況
- 屋外トレンチ等の低レベル滞留水処理の進捗状況
- 運用停止タンクの解体見通し
- サプレッショングール水サージタンク周辺土壤改良工事について
- 6号機使用済燃料取り出し後の運用見直し

現在の5・6号機滞留水処理設備の運用状況

- ◆ 5・6号機滞留水貯留設備はC群タンクバイパスルートが運用開始してから、K, Nタンク及び処理設備である浄化ユニットのみ運用となっている。
- ◆ 運用停止設備について、実施計画変更を申請済。**(2025年4月)**

	現在使用中タンクの貯留状況と貯留量				
タンク名	N 1	N 2	N 3～N 4	N 5	K 1～K 5
貯留状況	建屋滞留水	増設雑固ピット水	R O濃縮水	浄化ユニット処理水	R O濃縮水
貯留量 (m ³)	約900※	約800	約2150	約200※	約4800

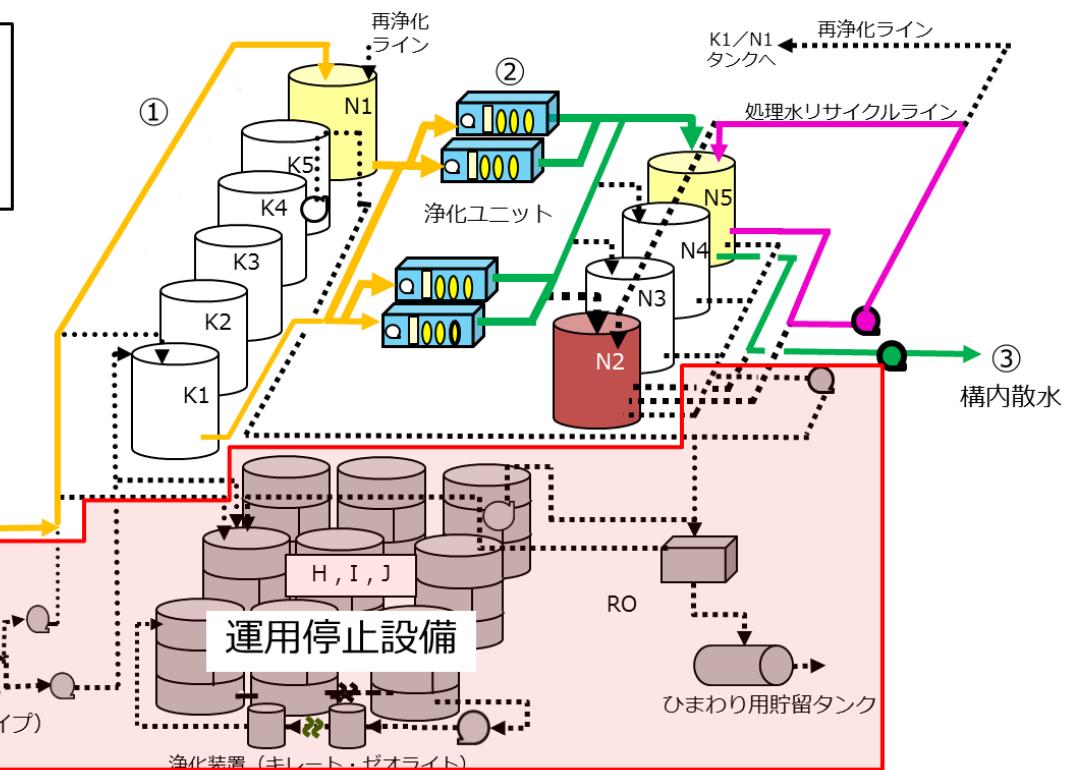
※：N 1タンクは滞留水受入、N 5タンクは浄化ユニット処理水を貯蔵しているため日々貯蔵量は変化する。

【5・6号機建屋滞留水処理方法】

- ① 5・6号機で発生した滞留水は6号機T/Bへ集め、N 1タンクへ移送する。
- ② N 1タンクから浄化ユニットで処理を行いN 2タンクへ移送する。
- ③ サンプリング後、散水。

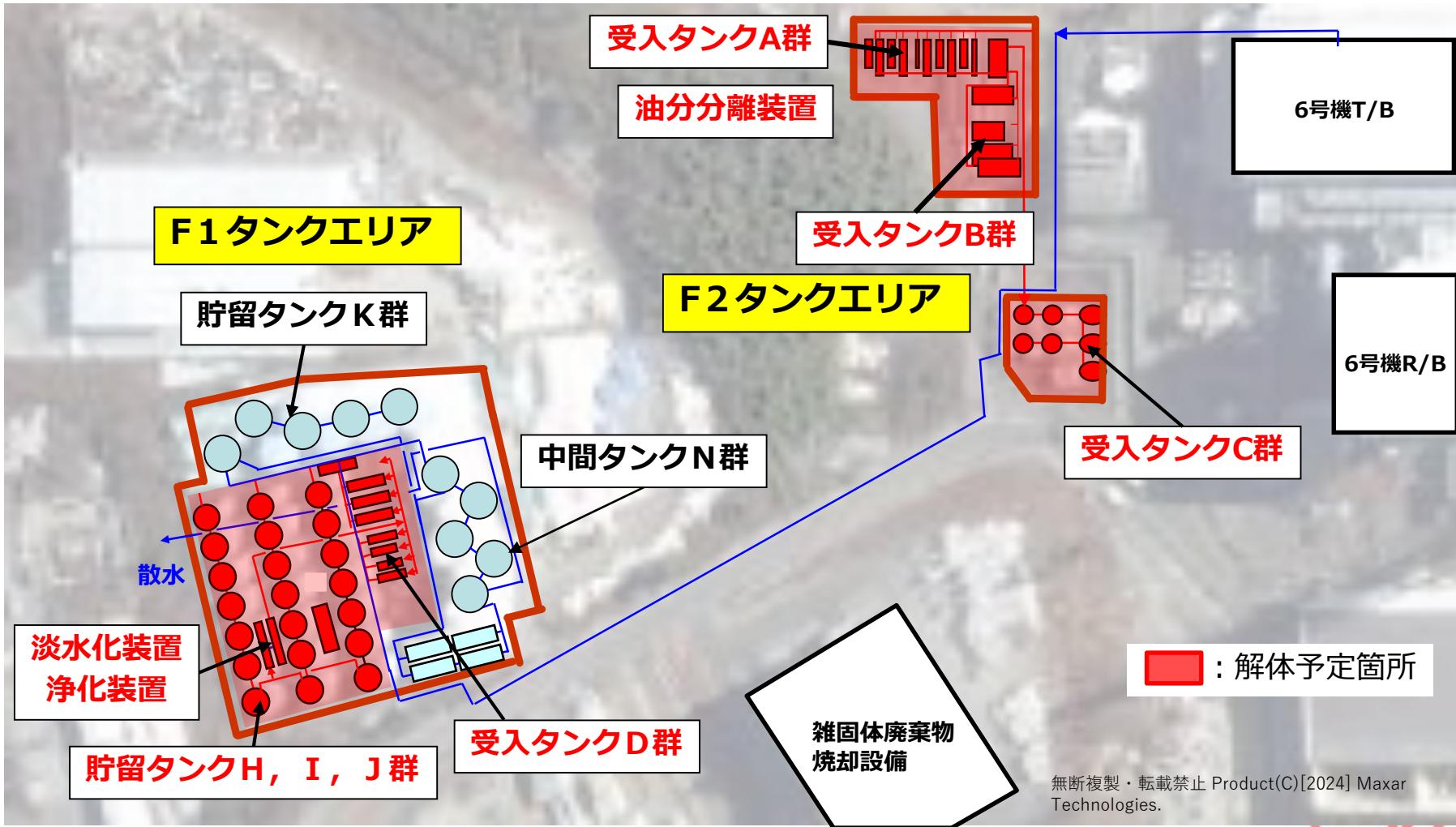
<凡例>

- 滞留水ライン
- 処理水ライン
- 処理水リサイクルライン
- 運用停止ライン



記載削除後の解体見通し

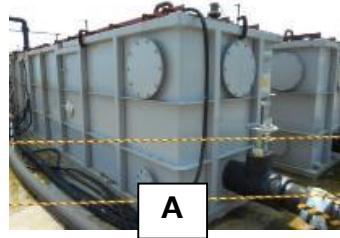
- 5・6号機滞留水貯留設備のフランジ型タンク他の使用停止撤去範囲は以下の通り。
- ✓ F1タンクエリア※
貯留タンクH, I, J, 受入タンクD, 淡水化装置, 凈化装置
- ✓ F2タンクエリア※
受入タンクA, B, C, 油分分離装置



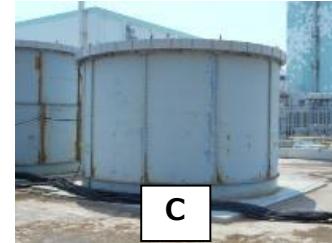
※：設備撤去に伴い、配管及び弁、ポンプ、堰の撤去、F1タンクエリアの堰の改造を実施予定。

【参考】実施計画記載削除設備

	Aタンク	Bタンク	Cタンク	H・I・Jタンク	Dタンク	油分分離装置	キレートゼオライト装置(浄化装置)	RO装置(淡水化装置)
形状	角形溶接	角形フランジ	円形縦型フランジ	円形縦型フランジ	横置き型溶接	—	—	—
設置時期	2011年5月	2011年5月	2011年5月	2011年5月	2011年10月 ／2013年4月	2011年5月	2011年5月	2014年9月
用途	油分分離	油分分離	建屋～F-1エリアへの中継タンク	貯留用	貯留用 (散水前)	油分分離	滞留水浄化処理	滞留水（津波）処理



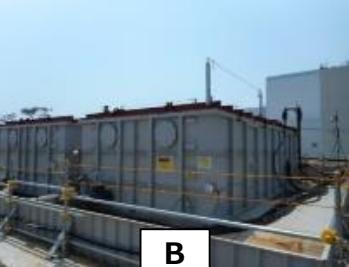
A



C



油分分離装置



B



H・I・J



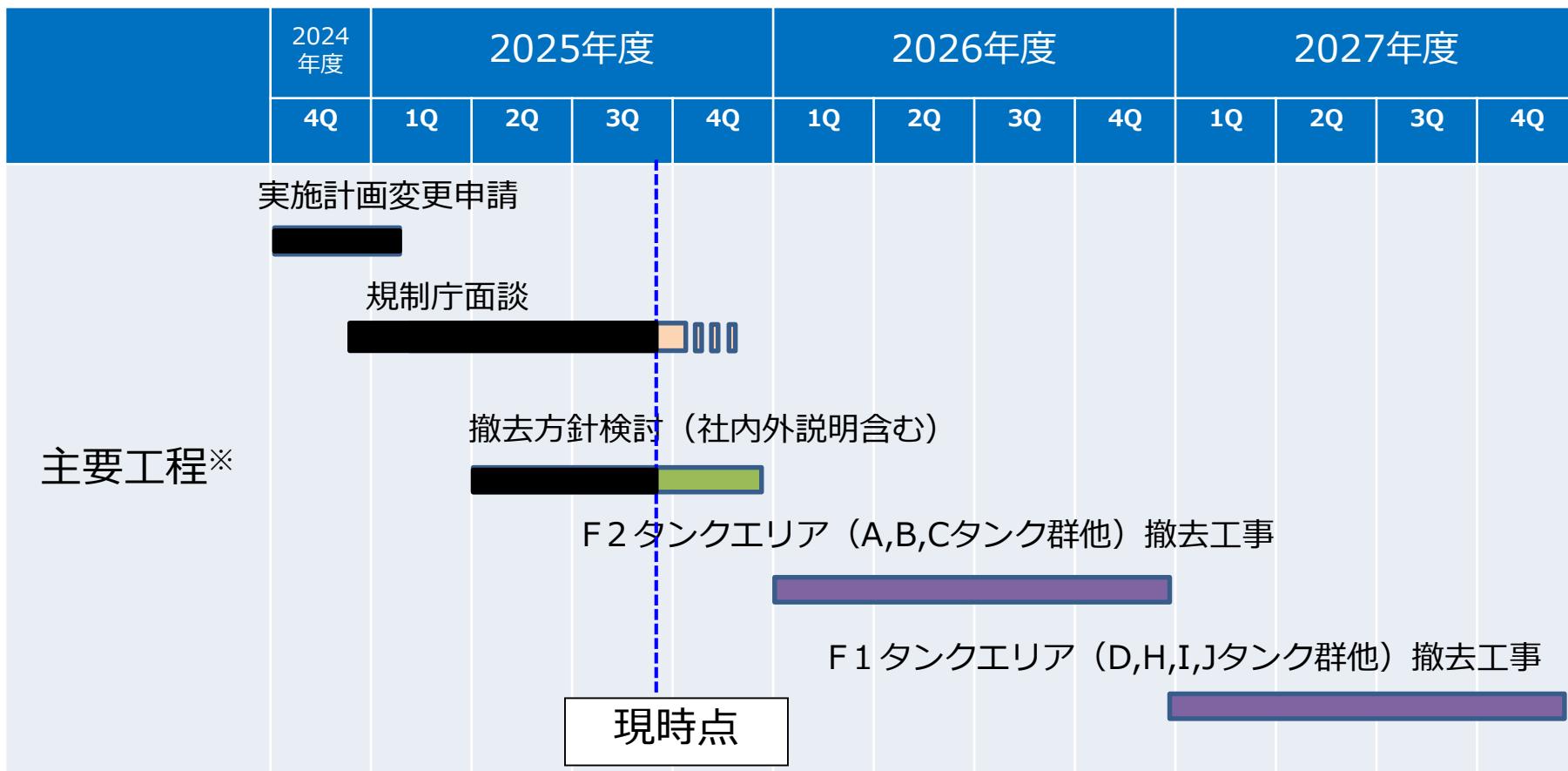
D



キレートゼオライト装置



RO装置



※：社内外説明、エリア調整により工程に変動有

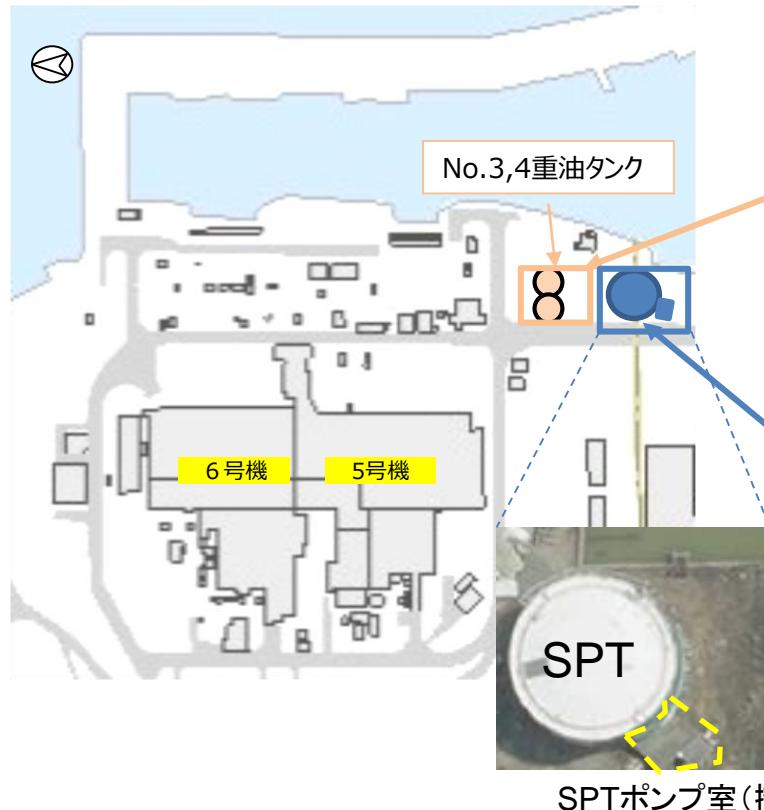
- 5・6号機の現状について

- 低レベル滞留水処理の進捗状況
- 屋外トレンチ等の低レベル滞留水処理の進捗状況
- 運用停止タンクの解体見通し
- サプレッションプール水サージタンク周辺土壤改良工事について
- 6号機使用済燃料取り出し後の運用見直し

概要

- 2011年3月に発生した東日本大震災の津波により、福島第一原子力発電所構内の5・6号サプレッションプール水サージタンク（以下、SPT）およびNo3・4重油タンク※は損傷した。
- 現在、周辺土壤からの港湾への重油漏えいは確認されていないが、重油タンク周辺の油含有土壤対策工事を実施する。
- 油含有土壤対策工事を行うにあたり作業に干渉するSPTポンプ室を撤去する。

※2021年3月 No 3・4 重油タンクは撤去済。



SPTは津波遺産として現地保存する計画

重油タンク周辺の油含有土壤対策工事概要

- 地表面から、岩盤層まで新設鋼矢板を打設する。一部区域については表土の油処理を行う。
- 既設護岸と新設鋼矢板の間は、地表面から岩盤層まで地盤固化を行う。
→鋼矢板打設箇所は海側から3mに設置し、固化範囲は104mである。
- 最終的にアスファルト舗装を行い、封じ込め完了とする。

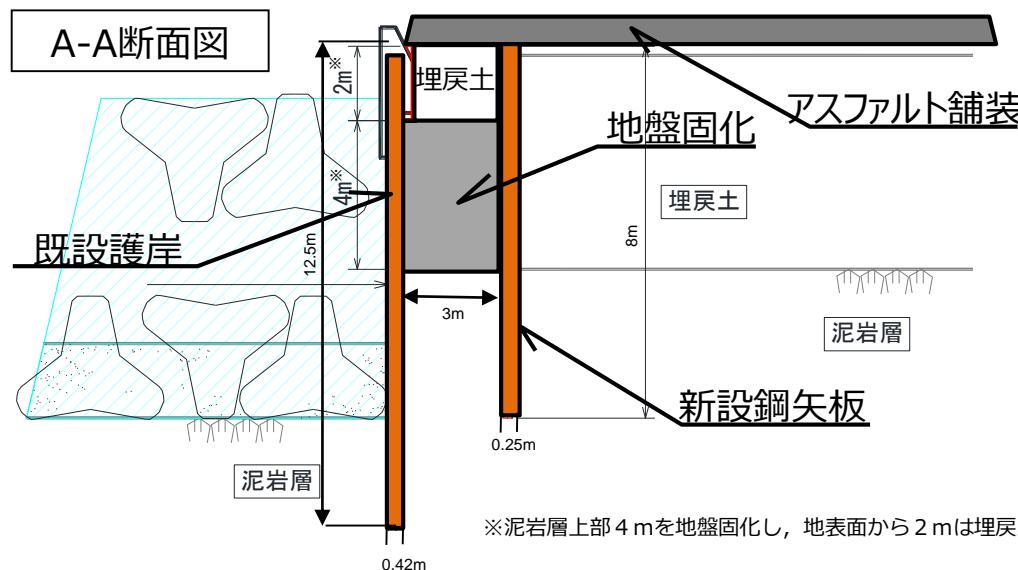


写真1 施工イメージ

写真1引用元：エスケー工業株式会社 施工事例 より
URL : http://www.sk-ico.com/jirei_01.html

	2024 年度	2025年度				2026年度				2027年度				
		4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
主要工程	S P Tポンプ室内（配管及びポンプ他）撤去工事				[]									
	S P Tポンプ室建屋撤去工事				[]									
	油含有土壌対策工事				[]									
	現時点				[]									
	[]				[]									
	[]				[]									

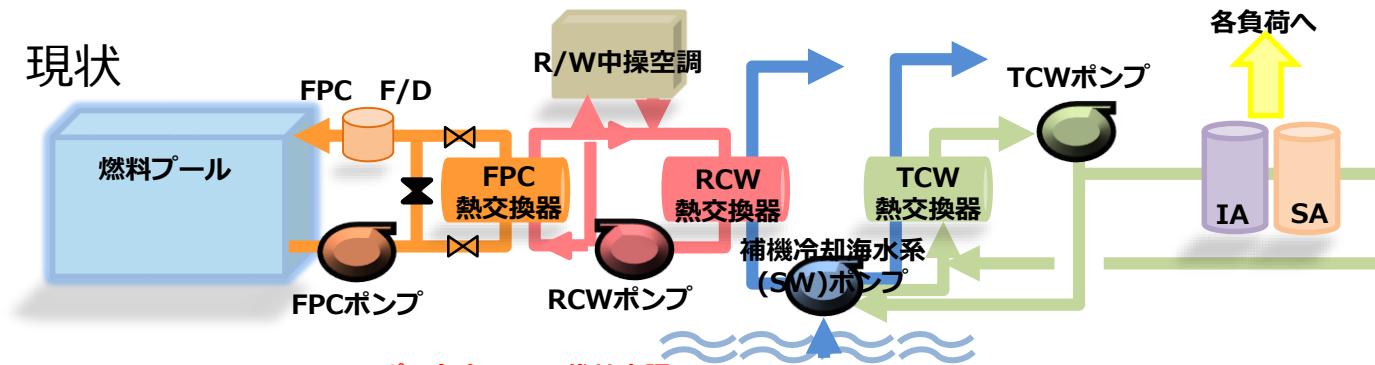
※：社内外説明、エリア調整により工程に変動有

- 5・6号機の現状について

- 低レベル滞留水処理の進捗状況
- 屋外トレンチ等の低レベル滞留水処理の進捗状況
- 運用停止タンクの解体見通し
- サプレッショングール水サージタンク周辺土壤改良工事について
- 6号機使用済燃料取り出し後の運用見直し

- 6号機においては2025年4月に使用済燃料取り出しが完了し、燃料プール冷却系の冷却の要求機能は無くなった。
- 冷却源となる補機冷却海水系(以下SWとする)系統をはじめ、その他系統(RCW, TCW, RHRS) の運用停止の評価結果、問題はないと整理を行った。
- 6号機 SW, RCW, TCW, RHRSの4系統を使用する関連設備については運用停止とし、IA・SA系については5・6号機連絡弁を開運用とし5号機から供給する。

■ 現状



■ 対応後

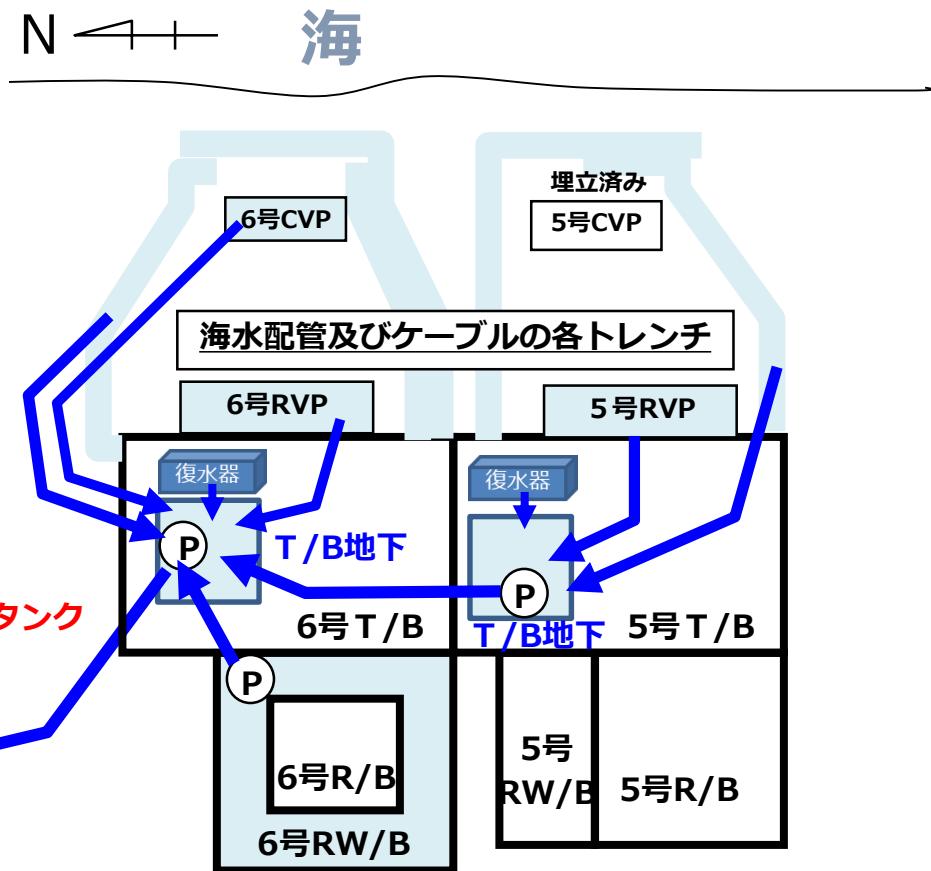
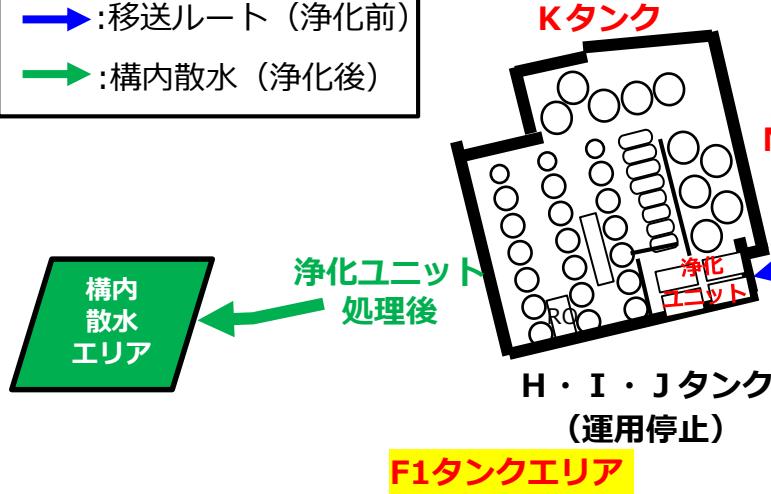




※：社内外説明、エリア調整により工程に変動有

- ✓ 5・6号機各建屋の滞留水低減対策に併せて、建屋周辺の低レベル滞留水の処理を進めていく。
- ✓ 5・6号機周辺トレンチ等の低レベル滞留水は建屋内滞留水と同等の水質であるため、建屋内と同様に浄化ユニットによる処理を行う。
- ✓ 建屋内に塩素濃度が高い低レベル滞留水があるため、塩素濃度を考慮しながら処理を行う。
- ✓ 2024年度下期～2026年度にかけて処理を実施する予定。

R/B:原子炉建屋
T/B:タービン建屋
RW/B:廃棄物処理建屋
RVP:逆洗弁ピット
CVP:循環水吐出弁ピット



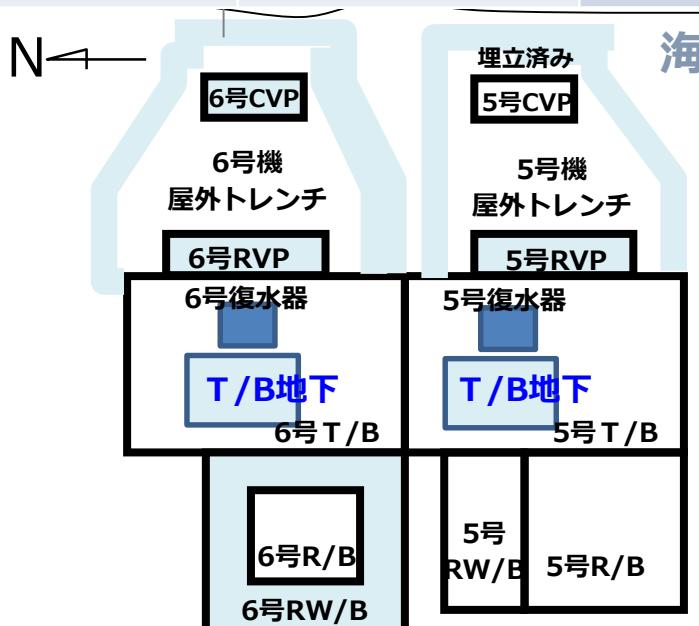
下記に示すとおり、屋外トレンチ等の低レベル滞留水の水質は5・6号機低レベル滞留水と同等であることから、構内散水基準まで浄化することは可能である。

分析項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	全β放射能 (Bq/L)	水量 (m ³)
5号復水器※	0.7	6.6	12.8	約400
6号復水器※		分析時期調整中		約1200
6号CVP (吐出弁ピット)	0.7	3.7	5.1	約850
5号RVP (逆先弁ピット)	3.0	19.2	0.7	約1500
6号RVP (逆先弁ピット)	1.5	11.3	0.7	約1500
5号T/B滞留水	0.6	0.5	10.4	
6号T/B滞留水	0.7	7.5	26.0	約1100
6号機RW滞留水	1.4	11.3	63.2	
5号機トレンチ	0.8	1.4	6.0	
6号機トレンチ	7.1	7.9	6.0	約1340

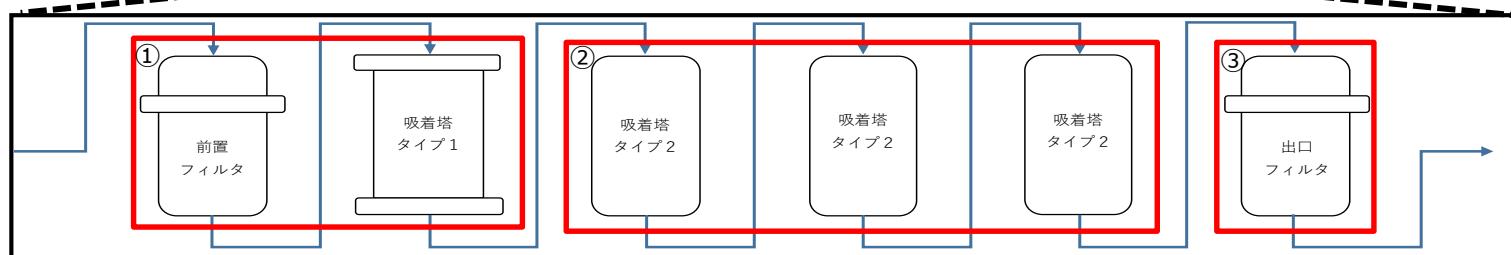
※：震災当時の津波海水を含む低レベル滞留水を回収したもの



R/B:原子炉建屋
T/B:タービン建屋
RW/B:廃棄物処理建屋



- 構内散水にあたっては、Cs-134, Cs-137, 全β放射能, H-3の告示濃度限度比の和0.21以下であり、その他人工核種が検出されないことが散水条件である。
- 告示濃度限度比の4核種はCs-134, 137, 全β放射能, H-3のうち、H-3以外を取り除くために浄化ユニットを使用している。



①前置フィルタ/吸着塔タイプ1（活性炭）	②吸着塔タイプ2（FST）	③出口フィルタ
浮遊物質やコロイド状物質など不純物を捕集する機能。	セシウム/ストロンチウムを吸着材に捕集する機能。	前段の吸着材が後段に流れないように捕集する機能。

単位：(Bq/L)

分析項目	Cs-134	Cs-137	全β放射能	H-3	その他人工核種	告示濃度比
N 1 タンク (6号機T/Bからの 低レベル滞留水)	0.72	12.3	22.32	118.1	検出無	0.91
N 5 タンク (浄化ユニット処理水)	0.65	0.64	2.17	108.5		0.11

チーム会合資料(2025.9.18)

TP:11564

G L

